



からしだね

2023年8月・9月号
(595号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX： 072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

山の彼方の空遠く 御受難会司祭 来住英俊

8～9月のガラスケースのみ言葉と解説

黙想会のテーマは「近くの人のために祈る」

6月25日 大人の日曜学校だより

みんなの談話室

来住神父による黙想会に参加して
カード作りについてお詫びとお知らせ

8～9月宝塚黙想の家 お知らせ

今期の表紙絵について

巻頭言

山の彼方の空遠く

御受難修道会司祭 来住英俊

夏は、若い私にとって永遠を想う季節でした。白雲の浮かぶ青空を背景に聳え立つ山のイメージです。カール・ブッセの「山のあなたの空遠く、『幸』住むと人のいふ」という詩は、私の高校時代にはまだ教科書に載っていました。60年くらい前です。

私は神戸で高校に通っていて、部活はワンダーフォーゲル部でした。ワンダーフォーゲルとはドイツ語で「渡り鳥」という意味で、テントを担いで野外の旅をする活動です。

ドイツと違って、日本には何日も徒歩で旅ができる広大な森林地帯がないので、ワンダーフォーゲルも山に登ることになります。六甲山系は、私たちの日常的な活動の場でした。私がこの部活に入ったのは人間関係的な理由によるものです。山に登ることそのものは好きというわけではなかった。ただ、麓から山の頂上を見つめて、そこはどんな場所だろうと想像するのが好きでした。夏休みの間は、宿題もせず、座敷にゴロゴロして、白雲の浮かぶ青空を背景に高く聳える山を夢想していました。

『夏の思い出』という唱歌があります。「夏が来れば思い出す。はるかな尾瀬、遠い空」。この歌詞を書いた人は、もちろん実際に尾瀬に行ったことはあるでしょうが、脳裏に浮かんでいるのは、現実の風景ではなく、夢の世界ではないでしょうか。「水芭蕉の花が咲いている。夢見て咲いている水のほとり。」

夏の合宿には、ハケ岳とか、伯耆大山とか、名山と呼ばれる山にも登りました。しかし、実際の頂上は、私が脳裏に描いた風景とは違いました。若い日の私の憧れと、それが満たされぬ焦燥は今、イエス・キリストにおいて実現している。満たされている。夏が来ると、そう思うのです。「霧の中にうかびくる 優しい影、野の小路(こみち)」

私の入ったワンダーフォーゲル部はアスリートの集まりとは言えず、文化系サークルの雰囲気でした。早い話が、斜に構えた遊び人っぽい部員が多かったのです。この高校にも登山部はあったのですから、ガンガン高山を極めたい連中はそちらに行ったのでしょう。しかしそれでも、山を登るコツはいくつか、先輩から教えて貰いました。それは今でも覚えています。

一つは、長い厳しい坂に差し掛かったら、ヒョイヒョイと飛ぶように登れるものではない(元気な子供はそうしがります)。歩幅を小さく取れ。そして、一步ごとに体重を乗せて、ジワジワと登って行け。この教えは、その後の人生で、何度か胸突八丁に差し掛かった時に役に立ちました。小さな歩幅で、一步ごとに体重を乗せて、ジワジワ登っていけば、確かにその坂はいつか終わるのです(まだ頂上に着くわけではないのですが)。というわけで、夏が来ると、愚かだった若い日々のことを思い出して、感傷的になるのです。

父のごとき夏雲立てり津山なり

西東三鬼

8～9月のガラスケースのみ言葉
わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか
マタイ 27章 46節

8～9月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

近年では異常気象のニュースが話題にならない日はないのではないかとされるほど、世界中で自然災害が多発しています。千年に一度と言われる大規模な地震や洪水、干ばつなどの異常気象は、毎年のように日本でも発生し、被災による困難に直面している人は少なくありません。

先日、秋田での豪雨災害の報道を目にしたことで、久しく連絡を怠っていた友人に電話を入れてみました。話を聞いてみると、彼の住むアパートはぎりぎりのところで冠水を免れたらしく、直接的な被害は軽微なものだったのですが、周囲の家や畑などは床上浸水などの被害を被ったところが多々あるようでした。彼も通勤路が冠水していたために幾つか道路を迂回して何とか職場にたどり着くことができたとのこと。不幸中の幸いと言えばその通りですが、周りの状況を考えて素直に喜ぶことはできません。

秋田は日本でも有数の農業の盛んな地域であり、それを生業とする人は数多くおられます。彼らは、祖先から受け継いだ田畑を懸命に耕作して、手塩に掛けて育てた作物を私たちの食卓に届けることに使命感を持って働いている人々です。今回の災害によって、収穫を断念せざるを得ない状況に直面したとき、これまでの労苦が水の泡になってしまうことに、誰もが絶望感を抱かざるを得ないのではないのでしょうか。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」。この言葉は、イエス・キリストが十字架に磔になったときに発した七つの言葉のうちの一つです。イエス様に反感を持ち、十字架の周りを取り囲んでいた人々は、この言葉を聞いてイエス様に酸いぶどう酒を飲ませようとしてしました。これは気付け薬であって、イエス様の苦しみをさらに引き延ばそうとする魂胆があったのです。

この言葉だけで判断すると、イエス様は確かに絶望的な思いに駆られていると誰もが思うことでしょう。しかし、これは詩編22編の冒頭部と同じ言葉であることに気がつくなら、決してそうとは言えないのです。詩編22編は、ダビデが命の危機に直面した時に己の心情を詩にしたものと伝えられています。詩の3分の2は絶望的な状況下にあるダビデの思いが語られ、その姿は十字架に磔にされたイエス様を思い起こさせます。それはまさしく、愛する神様にさえも見捨てられたのだとしか思えない状況だからです。

ところが後半の3分の1は、まるで別の詩ではないかと思わせるほどに、内容ががらりと変わってしまいます。それは神様への心からの感謝と賛美の思いに溢れたものであり、希望に満ち満ちた人が詠んだものと思えません。イエス様の口をついて出た言葉が詩編22編の冒頭部であるとすれば、たとえ絶望の渦中にあっても、私は神様への信頼を決して失いません、というイエス様の決意を表したものだのではないのでしょうか。わたしたちも、秋田の被災した人々と同じ状況ではないにせよ、予期せぬ不幸に見舞われることが起こるかもしれません。そのときはイエス様の心情を思い出して、神様への信頼と希望を失うことがないようにしたいものです。

来住英俊神父による合同黙想会（テーマ；身近な人のために祈る）

研修委員会

6月29日に開かれた黙想会は神父様より頂いたレジュメに沿っておこなわれました。このレジュメを、単に言葉として読むのではなく、イメージを想い浮かべながらお読みください。

1. 講話、テーマ「身近な人のために祈る」、
のレジュメ

○講話(1-1)

- ・自書『目からウロコ とりなしの祈り』（女子パウロ会刊）の紹介。
- ・次から次へと押し寄せてくる出来事になんとか対処するだけが、私の人生だろうか。
- ・身近な人（子供・親・配偶者）も、私たちにとって心配の種である。～多くの問題には、簡単な解決はありそうにない。
- ・「祈ることしかできない」のではない。～「祈ることはできる！」という言うべきだ。
- ・身近な人のために粘り強く祈る。～取り次ぎの祈り～神と共に歩む各自の人生の主人公であるという確信を育てることができる。

○講話(1-2)

- ・祈り続けることが大事である。～祈り続けるのでなければ、取り次ぎの祈りとは言えない。
- ・当人を、イエスさまのところに連れて行き、み前にそっと置いてあげる。
- ・マルコ2章1～5節は取り次ぎの祈りのイメージに相応しい。
『数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。』
- ・祈りの格言「祈れるように祈る」。
- ・イメージで祈る理由①言葉を紡いで、祈り続けることは難しい。
- ・イメージで祈る理由②実現してほしい状態が分からない。
- ・一人でいるところを、イメージする。
- ・思い



悩む者の姿。(実習)・イエスさまと、当人を一緒に画面にイメージする。～人間だけの思い悩みの世界にならないように。

○講話(2)

- ・祈りの時間を支える。イメージを見つめながら、ロザリオを繰る。
- ・イメージを見つめながら、ロザリオに触っているだけでもよい。
- ・マルコ1章40～42節は取次の祈りのイメージに相応しい
『さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった』
- ・主の祈り+アヴェマリア。～イメージを見つめる 70% + 祈りの言葉30%。

○講話(3)

- ・イメージで祈る理由③。～当人が何を苦しんでいるかを、間違っただけで想像していることがある。～親に関わる苦しみ。
- ・当人の苦しみと、私の苦しみを混同しない。
- ・意向を個別化する。～一件につき一人。～対象をグループにすると、深みがなくなる。
- ・とりなしの祈りの実り。～品位と落ち着き。～当人と落ち着いて対処できる。
- ・半年、祈り続ければ、何かが意味のあること

が起こる。～期待した状態ではないかも知れないが……。

○講話(4)

・死者のために祈る。・教会のリーダーたちのために祈る。好き嫌いとは別。～リーダーとは司祭に限らない。・ミサの取り次ぎの祈り。～何人かを、脳裏に思い浮かべる。～間を取る。

○食後の祈り

2 研修委員のコメント

①黙想会で心に残った言葉

・祈りは神様と共に自分の人生を歩むのだという感覚。・来住神父様は祈られるのは30分、私たちは10分で良い。・祈り続ければ意味があることがわかる。・ことばでなくイメージで祈る。(ことばで祈ることはむなしくなってくる)・心配することと祈ることは違う。(心配は心の状態、受け身のもと。祈りは腰を据えて神様の前でそつと置いてあげる事)イメージで祈れば長く続けられる。・詠唱を大事にする。詠唱を胸を張って唱える事で祈りの世界は広いと位置付けると良い(とりなしの祈りは、祈る為の人と自分という狭い世界に入ってしまうがちな為)。・死者をお祈りすることの大切さ・信徒のリーダーに祈ることは良い事だ。(信徒のリーダーたちは感謝はされる事はあると思うが祈られることは少ないと思う。)(信徒同志が互いに祈り合うことは大事な事だ。)

②「近くの人のためのとりなしの祈り」としての来住神父様の講話

日常では多くの困難や出来事が身近な人を巻き込んで私たちに降りかかってくる。身近な人が困っているとき、祈ることしか出来ないという姿勢から祈ることが出来るという姿勢に変えることで、自身の受け身の人生から神と共に自ら歩む人生に変えることが出来る。とりなしの祈りは人生を大きく変える力を秘めていることに気づかされました。また、とりなしの祈り方についても『目からウロコ』でした。

特定の誰かが幸せになるようにとただ神に祈るのではなく、特定の誰かとイエス様が一緒にいるイメージを思い浮かべることを

教わりました。また、イメージで祈ると祈りを継続させることが出来るとのこと。

とりなしの祈りのみによって特定の小さな世界に陥らないように『栄唱』を祈る事でとりなしの祈りの世界と大きな世界とのバランスを保つ大切さも教えて頂きました。

形や成果だけで終わらない、生き方としてのとりなしの祈りを、私もロザリオを使って毎日10分間始める事にしました。

来住神父様 ご指導頂き有難うございました。神に感謝。

6月25日 大人の日曜学校だより 研修委員会

「恐れるな」 マタイ10・26～33
ここでイエス様は何度も「恐れるな」と私たちに言われます。

毎日のことをふりかえるといろいろな「恐れ」にとらわれ振り回されている自分に気が付きます。世界でおこっている様々な恐ろしい出来事、将来の不安などでこころが休まるときがありません。それなのに「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」といわれているのにわたしも世の中の大半の人もそのことを忘れて自分勝手に生きています。

雀にさえも目をかけ、わたしの髪の毛一本まで数えてくださる神がいらっしゃるのに信頼しきれないわたしがいます。

今回の集まりは4人しか集まれませんでしたがお互いの弱さを出しあい、福音を分かち合う大切な時間となりました。

「わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。」これはどういふことなのだろうと考えています。本当はいつも考えていなければならないのかもしれませんが、大人の日曜学校があった週はその時の福音を思い出させてくれてありがたいと思います。

みんなの談話室

来住英俊司祭による合同黙想会に参加して 島上、K.A.、大野、Y.T.

二つの事が心に残りました。一つはイエス様に会いたい人をどうにかして会わせてあげるということ。中風の人を屋根に穴をあけてまでイエス様に合わせるのをすごいな一とだけ思っていただけの自分はその人たちほどの信仰も友情もない情けない人間だったと気付かせてもらいました。

二つ目は祈りたい人のかたわらにイエス様がおられるのを想像してみる。そのひとによって手を握っておられたり、肩をだいておられたりただ座っておられたり……。

祈りが具体的になるように感じます。 (島上)

来住神父様の黙想会に始めて参加しました。講話のテーマ「身近の人のために祈る」で祈り方を学びました。

数人のために祈るのではなく、祈りたい人をしっかりとイメージして祈り、人間の思い悩み世界にせず、決め付けないで、イエス様のところへそっとおいてあげて、最後にロザリオの祈りで取次を祈る。

「身近な人のために祈る」という合同黙想会で新しい発見がありました。神に感謝。 (K.A.)

老境に入った私は、6月29日の池田・日生中央合同黙想会で来住神父様が配られたレジュメ（粗筋）でテーマ「身近な人のために祈る」のが「とりなしの祈り」であるのを初めて知ったのでした。来住神父様の講話の中でとりなしの祈りの好例と紹介されたマルコの福音書の1章40～42節と2章1～5節を読んで、人間イエス様が洗礼後の荒れ野において、悪魔の誘惑を退け、同1章15節「神の国は近づいた」（マルコ1：15）を確信し、苦境にある人びとに触れて湧き上がった熱い思いが「神さまへのとりなしの祈り」をもたらしたのだと気付きました。そして、神様は人間にとっての未来からの言葉をイエスに伝えたのでしょう。更に、来住神父様が紹介された著書（「目からウロコ とりなしの祈り」全91ページの小冊子、2002年刊）を読むと、他者についての「とりなしの祈り」を他者を神の近くにおくイメージで行い、祈りを継続させるのに努め、狭い自分の思い込みに陥りやすくなる言葉を用いて祈ることや祈っていることを他者に伝えることは避けた方が良いとのこと。（大野）

大切な人のために、何が出来るだろうと思う時、なんの力もない私は、ただただ祈ることしか出来ないと思っていましたが、「祈ることしかできない」のではない、「祈ることはできる！」と言うべきだ。という来住神父さまのお言葉に、苦しい心が解き放たれて明るい未来が見えたような気持ちになりました。

そして、「イメージで祈る」ということを教えて頂き、祈り続けることの尊さや祈りの力をまた改めて感じました。とても恵みある黙想会でした。ありがとうございました。感謝のうちに。 (Y.T.)

カード作りについてお詫びとお知らせ

久保 昌子

暑さ厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日 I love youカード作りをお願いしたところ、さっそくたくさんのかわいらしいカードを作って下さり、ありがとうございました。

ところが、肝心の私が6月末から体調を崩し、南アフリカへの渡航をあきらめざるを得ない状況になってしまいました。せっかく作っていただいたカードをすぐに届けることができなくなってしまい、心よりお詫びいたします。

作っていただいたカードは大切に保管させていただき、来年の夏こそは体調を崩さず南ア

フリカの子どもたちに届けに行こうと思っています。

今回届いたカードを見ていると、子どもたちの喜ぶ顔が目浮かぶようです。南アフリカへ行くことができなくなってしまい本当に残念ですが、来年こそは直接子どもたちに手渡して、皆さんにご報告させていただきたいと思っています。どうか、南アフリカの子どもたちのために引き続きお祈りくださるよう、お願いいたします。

8～9月宝塚黙想の家 お知らせ

- 日帰り黙想会 10:00～15:30
9月28日(木) 指導：染野 治雄 神父
9月29日(金) 指導：山内 十束 神父
- 一泊黙想会
9月14日(木) 17:00～15日(金) 15:30
指導：染野治雄 神父
- カトリック教会のカテキズム
9月13日(水) 10:00～12:00
9月27日(水) 10:00～12:00
指導：染野 治雄 神父
- 聖地エルサレムを学ぶ
9月14日(木) 10:00～12:00
指導：笹田六合豊 修道士
- 聖書の基本
9月06日(水) 10:00～12:00
9月20日(水) 10:00～12:00
指導：山内 十束 神父

尚、8月に 黙想会などは開催されません。上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎797 (84) 3111

今期の表紙の絵について

「無原罪の御宿り」が具体的にどういうことを指しているのか、これまでよくわからなかった。ルルドのベルナデッタが無学なはずなのに、「無原罪の御宿り」という難しい言葉を発したため、ルルドの聖母出現の奇跡が事実だという証拠とされたことは知っていた。イエス様がマリア様の胎内に御宿りなされたことを示すのかと思っていたが、そうではなくて、聖アンナがマリア様をみごもったとき、マリア様はすでに無原罪だったことを表す言葉だそうだ。

表紙の絵はスペインのバルトロメイ・エステバン・ムリーリョが1660～1665年に制作した「エル・エスコリアル無原罪の御宿り」という題名の油彩画である。当時、

聖母マリアの描き方についての本が出されていて、それによると、聖母は12, 3歳の少女で、白い服の上に青いマントを着け、手を胸に当てて祈っている姿がよい、とされていた。またヨハネ黙示録12-1にある、「一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には12の星の冠をかぶっていた」という箇所がマリア様にあてはめられることが多かった。

マドリードのプラド美術館には表紙絵と同様の作品が何点か収められていて、その中で最高傑作とされる一枚である。



ブランチが有志によつて七月十六日に再開されました。初日は豪華な天ぷらうどん。

編集後記

光が射し込んできた。3年あまりに及ぶコロナ禍からようやく脱して、教会は本来の姿にもどりつつある。主日のミサはほぼ満席になってきた。讃美歌が歌われ、お泊り会が再開し、若者はワールドユース大会へ参加し、ランチまでふるまわれるようになった。世界には侵略や内戦、飢餓や伝染病で苦しむ大勢の人々がいる中で、浮かれてはならないが、以前なら当たり前と思っていたことが再びできるようになった喜びは大きい。黙想会を指導するまでに回復なされた来住神父様の教えに従い、苦しむ人々のイメージを具体的に心に浮かべて祈りたいと思う。

ソフィー